

報文

「さいたま緑の森博物館」観察会で見られた鳥類

対馬 良一

(トトロのふるさと財団)

はじめに

10年前の自然環境調査報告書(トトロのふるさと財団 2001)で1998年度に「さいたま緑の森博物館」の自然観察会で観察された鳥類の記録を報告したが、今回はその後の観察会で見られた記録の報告をする。前回の報告書でも述べたように、報告する鳥類リストは厳密な調査法にのっとったものではなく、自然観察会で観察された鳥類の記録をまとめたものである。観察会はその季節に応じたさまざまな動植物を対象に行われ、鳥類に関心を向けない日も多く、従って、記録も不完全である。しかし、不完全なりにも経年的に記録することにより狭山丘陵の自然環境の変化を測るバロメーターの一つになるのではと考える。

調査方法

自然観察会は、毎日曜日(2004年度からは月2回)の午前9時半から午後12時半までの約3時間、大谷戸湿地から西久保湿地までを結ぶ約1.9 kmのコース(湿地、雑木林、伐採跡地、水田、畑地などの里山環境が配置されている。)で実施されている(図1)。今回は1999年4月から2008年3月までに行なわれた延べ311回の観察会の記録を報告する。観察会で見られた鳥類は当日の自然観察解説員(荻野豊、島崎俊明、対馬良一、永石文明、大松好生、村松利文)が、観察会終了直後に所定の記録用紙に記録した。また、大谷戸湿地付近でセンター職員岡部賢介が観察した記録も参考にした。

調査結果

表1は1999年4月から2008年3月に行われた311回の観察会の記録を季節毎にまとめたものである。春は3月から5月上旬まで、夏は5月中旬から8月まで、秋は9月から10月まで、冬は11月から2月までとした。分類と種の配列は、日本鳥類目録(日本鳥類目録編集委員会 2000)に従った。

この9年間で観察された鳥類は36科83種であった。新たに出現した鳥類はカイツブリ科のカイツブリ、ウ科のカワウ、クイナ科のクイナ、バン、タカ科のハチクマ、ツミ、ミサゴ、ハヤブサ科のハヤブサ(1回)、チョウゲンボウ、チドリ科のコチドリ、イカルチドリ、シギ科のヤマシギ、ハト科のアオバト、カッコウ科のカッコウ、ツツドリ、ヨタカ科のヨタカ(1回)、ツバメ科のイワツバメ、サンショウクイ科のサンショウクイ(1回)、レンジャク科のキレンジャク、ミソサザイ科のミソサザイ、イワヒバリ科のカヤクグリ、ツグミ科のトラツグミ、クロツグミ、ウグイス科のオオヨシキリ、センダイムシクイ、ヒタキ科のエゾビタキ、カササギヒタキ科のサンコウチョウ、シジュウカラ科のコガラ、ヒガラ、ホオジロ科のクロジ、の30種である。また、1998年に見られたゴジュウカラは見られなかった。また、コジュケイは、改訂された日本鳥類目録に合わせて外来種として今回のリストからは外した。そのため1998年度に観察された鳥類24科55種に比べると12科28種増えたことになる。なおクロツグミ、サンコウチョウ、オオルリは、普段の観

察コースではなく金堀沢に沿ったコースで観察されたものである。また、記録が不備で観察日時が不明である観察種としてホオジロ科のアトリとオオマシコがある。これを加えると観察種は36科85種に上る。また、観察会で見られた外来種のリストも参考に掲載した。

観察された鳥類を渡り区分で分類すると留鳥22種、夏鳥6種、冬鳥10種、通過鳥45種であった。この9年間で新たに出現した30種は全て通過鳥であった。

まとめと考察

「さいたま緑の森博物館」エリアは狭山丘陵の中でも湿地、雑木林、草原、水田、ため池、水路、畑地、屋敷林などの多様な景観が組み合わさった「里山」の環境が残る生物多様性の豊かな地域である。観察会で出現頻度の高い鳥類（繁殖鳥：キジバト、アオゲラ、コゲラ、ハクセキレイ、ヒヨドリ、モズ、ウグイス、エナガ、ヤマガラ、シジュウカラ、メジロ、ホオジロ、カワラヒワ、スズメ、ハシブトガラス、冬鳥：ルリビタキ、ジョウビタキ、シロハラ、ツグミ、カシラダカ、アオジ、ベニマシコ、シメ、カケス）24種はいずれもこの「里山」環境に依存して生息する鳥類である。

森林植生に依存する夏鳥としてオオルリ、クロツグミ、キビタキ、サンコウチョウ等があげられる。キビタキはよく繁った広葉樹林を生息環境としているが、狭山丘陵の中心部の雑木林がこの数十年の間手入れされなくなりキビタキの生息環境に適してきたことが、キビタキの出現頻度の増加を反映していると思われ、興味深い。その反面、5月に特徴のある囀りで狭山丘陵に初夏の訪れを告げていたクロツグミが2004年を最後に見られなくなった。1980年には入間市の雑木林で繁殖も確認（入間市2006）され、一時増加傾向にあると思われたのだが、全県的に減少している。雑木林の減少だけがその原因とは考えられず、越冬地の環境悪化も考えられる。

平地、低山地の雑木林や屋敷林、社寺林などを生息場所とするサンコウチョウは、美しい姿と声で多くのバードウォッチャーの憧れの夏鳥である。近年、全国的に生息数が減少し、埼玉県でも例外ではない。狭山丘陵は埼玉県内で今なおサンコウチョウが経年的に繁殖している有数な生息地となっている。同じく低山の林を生息場所にする夏鳥のコサメビタキは近年減少が著しい。1980年代には狭山丘陵でも繁殖していたが、最近はずっかり姿を消している。しかし、最近「さいたま緑の森博物館」エリアで繁殖が確認され動向が注目される。

レッドデータブックの記載種であり、狭山丘陵の森林環境の豊かさの象徴であるオオタカの出現頻度は高く、冬季の観察会ではほぼ毎回見られている。そのため観察会では逆に関心が低くなっており、近年の記録が少ないのはそのことが理由の一つであると思われる。

タカ類やハヤブサ類の野鳥の種類が多い(10種)のも「さいたま緑の森博物館」エリアの森林環境の豊かさを現している。ノスリはオオタカ同様、冬季の観察会では定番のタカとなっていて、繁殖も確認されている。

下草刈りなど雑木林の手入れが少なくなった結果、藪を生息環境とするウグイスとそれに託卵する夏鳥のホトトギスの観察頻度が高まったのは興味深い。この10年間、6月の観察会では必ずホトトギスの声が聞かれている。

大谷戸田んぼは放棄後、丘陵内でも有数な広いヨシ原となっているが、夏期にはオオヨシキリが見られ、冬季にはベニマシコ、アオジ、カシラダカなどの冬鳥の越冬場所となっている。また、落葉広葉樹の林縁や農地を生息場所とするアカハラ、シロハラ、ツグミなどの大型のツグミ類やルリビタキやジョウビタキなど「里山」を象徴する小型ツグミ類が毎年案内所付近で観察されている。

低山や平地の林、住宅地などに生息し屋敷林や街路樹などに営巣するカワラヒワは狭山丘陵では秋には見られなくなると言われている

が、今回の記録でも8月から10月まで毎年決まって姿を消していることが分かり、興味深い。

「さいたま緑の森博物館」エリアには広い水辺環境はないが、谷戸に残るため池や湿地、新たに創出された池などでコサギ、アオサギなどのサギ類やカルガモなどのカモ類が見られる。アオサギは全県的及び全国的に増加傾向にあり、加治丘陵でも最近(1999年)繁殖が確認されている。それが博物館エリアでの観察頻度の増加に反映されていると思われる。

ハシブトガラスの増加による被害が東京都をはじめ各地で問題になっているが、狭山丘陵でも農作物などに被害が出て捕獲駆除などの対策が講じられている。図2は「さいたま緑の森博物館」エリア内のアズマネザサに作られたエナガの巣である。エナガは本来、落葉樹の枝の股などにおわん型の巣を作るが、近年ハシブトガラスの襲撃を避けるためこのような場所に営巣する例が増えていると思われる。また、夏鳥の減少の原因の一つにもハシブトガラスの捕食があげられている。

近年、増加傾向にあるソウシチョウやガビチョウなどの外来種は中国から飼い鳥として輸入され、日本人の嗜好に合わない轉りが敬遠されて意図的に放鳥されたものが野生化し増加

したものと言われている。狭山丘陵でもガビチョウの轉りが周年聞こえるようになった。手入れされなくなった雑木林の藪がガビチョウにとって好適な生息場所になっておりウグイスとの競合が懸念されている。

以上、観察会での記録をもとに「さいたま緑の森博物館」エリアの鳥類の動向を概観したが、「里山」環境に依存する鳥類が、人の手入れと共に成立してきた「里山」の環境や人の生活・行動様式の変遷を反映して消長していると思われるのが興味深い。また、今後も観察会の記録を継続して行い、里山保全の基礎資料にした

引用文献

- 入間市 (2006) 入間市の野鳥 III. 入間市都市整備部みどりの課、入間
- 日本鳥類目録編集委員会 (編) (2000) 日本鳥類目録 改訂第6版. 日本鳥学会、帯広
- トトロのふるさと財団 (2001) 自然環境調査報告書1998年. 財団法人トトロのふるさと財団、所沢

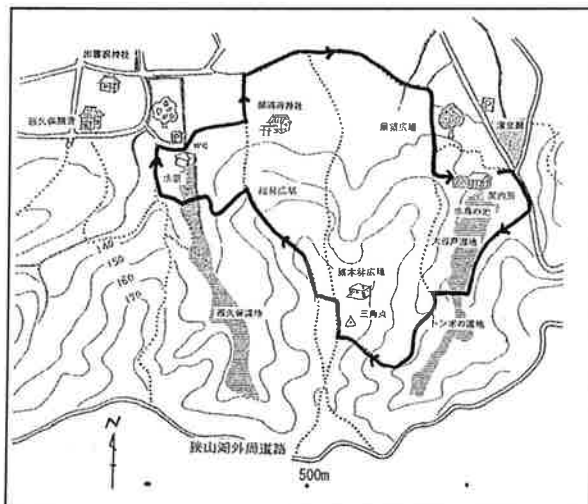


図1 観察会のコース



図2 エナガの巣
(2000年6月15日撮影)

表1 「さいたま緑の森博物館」で見られた鳥類

番号	科名	種名	学名	渡り区分	1999年		2000年		2001年		2002年		2003年		2004年		2005年		2006年		2007年		
					春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬	春	夏	秋
1	カイツブリ科	カイツブリ	<i>Icthyophaga ruticollis</i>	通過鳥																			
2	ウ科	カワウ	<i>Phalacrocorax carbo</i>	通過鳥																			
3	サギ科	ゴイサギ	<i>Nycticorax nycticorax</i>	通過鳥																			
4	サギ科	ダイサギ	<i>Egretta alba</i>	通過鳥																			
5	サギ科	コサギ	<i>Egretta garzetta</i>	通過鳥																			
6	サギ科	アオサギ	<i>Ardea cinerea</i>	通過鳥																			
7	カモ科	カルガモ	<i>Anas poecilorhyncha</i>	通過鳥																			
8	タカ科	ミサゴ	<i>Pandion haliaetus</i>	通過鳥																			
9	タカ科	ハチクマ	<i>Pernis apivorus</i>	通過鳥																			
10	タカ科	トビ	<i>Milvus migrans</i>	留鳥																			
11	タカ科	オオタカ	<i>Accipiter gentilis</i>	留鳥																			
12	タカ科	ツミ	<i>Accipiter gentilis</i>	通過鳥																			
13	タカ科	ハイタカ	<i>Accipiter nisus</i>	通過鳥																			
14	タカ科	ノスリ	<i>Buteo buteo</i>	留鳥																			
15	タカ科	サシバ	<i>Buteo buteo</i>	留鳥																			
16	ハヤブサ科	ハヤブサ	<i>Falco tinnunculus</i>	通過鳥																			
17	ハヤブサ科	オオノボリ	<i>Falco tinnunculus</i>	通過鳥																			
18	キジ科	キジ	<i>Phasianus colchicus</i>	留鳥																			
19	クイナ科	クイナ	<i>Rallus aquaticus</i>	通過鳥																			
20	クイナ科	ハン	<i>Gallinula chloropus</i>	通過鳥																			
21	チドリ科	コチドリ	<i>Charadrius dubius</i>	通過鳥																			
22	チドリ科	イカルチドリ	<i>Charadrius placidus</i>	通過鳥																			
23	シギ科	ヤマシギ	<i>Scelopax rusticola</i>	通過鳥																			
24	ハト科	キジバト	<i>Streptopelia orientalis</i>	留鳥																			
25	ハト科	アオハト	<i>Sphenurus sieboldii</i>	通過鳥																			
26	カツコウ科	カツコウ	<i>Cuculus canorus</i>	通過鳥																			
27	カツコウ科	ツツドリ	<i>Cuculus saturatus</i>	通過鳥																			
28	カツコウ科	ホトトギス	<i>Cuculus poliocephalus</i>	通過鳥																			
29	ヨタカ科	ヨタカ	<i>Corimulgus indicus</i>	留鳥																			
30	ツバメ科	アマツツバメ	<i>Apus pacificus</i>	通過鳥																			
31	カワセミ科	カワセミ	<i>Alcedo atthis</i>	留鳥																			
32	キツツキ科	アオゲラ	<i>Picus awokera</i>	留鳥																			
33	キツツキ科	アカゲラ	<i>Dendrocopos major</i>	通過鳥																			
34	キツツキ科	コゲラ	<i>Dendrocopos kizuki</i>	留鳥																			
35	ツバメ科	ツバメ	<i>Hirundo rustica</i>	留鳥																			
36	ツバメ科	イワツツバメ	<i>Delichon urbica</i>	通過鳥																			
37	セキレイ科	セキレイ	<i>Motacilla cinerea</i>	留鳥																			
38	セキレイ科	ハクセキレイ	<i>Motacilla alba</i>	留鳥																			
39	セキレイ科	セグロセキレイ	<i>Motacilla grandis</i>	通過鳥																			
40	セキレイ科	ペンゼイ	<i>Anthus hodgsoni</i>	通過鳥																			
41	サシバ科	サンショウクイ	<i>Pericrocotus divaricatus</i>	通過鳥																			
42	ヒヨドリ科	ヒヨドリ	<i>Flyscopetes amaurotis</i>	留鳥																			
43	モズ科	モズ	<i>Lanius bucephalus</i>	留鳥																			
44	レンジャク科	レンジャク	<i>Bombycilla sarrulus</i>	通過鳥																			
45	ミサギ科	ミソサギ	<i>Irogodytes troglodytes</i>	通過鳥																			

表1 つづき

番号	科名	種名	学名	渡り区分	1999年		2000年		2001年		2002年		2003年		2004年		2005年		2006年		2007年	
					春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬	春	夏
46	ツグミ科	カヤクグリ	<i>Prunella rubida</i>	通過鳥																		
47	ツグミ科	ルリビタキ	<i>Tarsiger cyanurus</i>	冬鳥																		
48	ツグミ科	ジョウビタキ	<i>Phoenicurus auroreus</i>	冬鳥																		
49	ツグミ科	トラツグミ	<i>Zoothera dauma</i>	通過鳥																		
50	ツグミ科	クログミ	<i>Turdus cardis</i>	通過鳥																		
51	ツグミ科	アハラ	<i>Turdus chrysolus</i>	通過鳥																		
52	ツグミ科	シロハラ	<i>Turdus pallidus</i>	冬鳥																		
53	ツグミ科	ツグミ	<i>Turdus naumanni</i>	冬鳥																		
54	ウグイス科	ウグイス	<i>Cettia diphone</i>	留鳥																		
55	ウグイス科	オオヨシキリ	<i>Acrocephalus arundinaceus</i>	通過鳥																		
56	ウグイス科	セウシキ	<i>Phylloscopus coronatus</i>	通過鳥																		
57	ヒタキ科	キビタキ	<i>Ficedula narcissina</i>	夏鳥																		
58	ヒタキ科	オオルリ	<i>Cyanoptila cyanomelana</i>	夏鳥																		
59	ヒタキ科	エソビタキ	<i>Muscicapa friseisticta</i>	通過鳥																		
60	ヒタキ科	コサメビタキ	<i>Muscicapa dauurica</i>	通過鳥																		
61	加那利科	セウシキ	<i>Ferpsiphone atrocaudata</i>	通過鳥																		
62	エナガ科	エナガ	<i>Aegithalos caudatus</i>	留鳥																		
63	シメ科	コガラ	<i>Parus montanus</i>	通過鳥																		
64	シメ科	ヒガラ	<i>Parus ater</i>	通過鳥																		
65	シメ科	ヤマガラ	<i>Parus varius</i>	留鳥																		
66	シメ科	シジュウカラ	<i>Parus major</i>	留鳥																		
67	シメ科	メシロ	<i>Major japonicus</i>	留鳥																		
68	ホオジロ科	ホオジロ	<i>Emberiza cioides</i>	留鳥																		
69	ホオジロ科	ミヤマホオジロ	<i>Emberiza elegans</i>	留鳥																		
70	ホオジロ科	カシラダカ	<i>Emberiza rustica</i>	通過鳥																		
71	ホオジロ科	アオジ	<i>Emberiza spodocephala</i>	冬鳥																		
72	ホオジロ科	クロジ	<i>Emberiza variabilis</i>	通過鳥																		
73	アトリ科	カワラヒワ	<i>Fringilla montifringilla</i>	留鳥																		
74	アトリ科	マヒワ	<i>Carduelis sinica</i>	冬鳥																		
75	アトリ科	ヘニマシコ	<i>Carduelis spinus</i>	冬鳥																		
76	アトリ科	ウン	<i>Pyrrhula pyrrhula</i>	通過鳥																		
77	アトリ科	イカル	<i>Eophona personata</i>	夏鳥																		
78	アトリ科	シメ	<i>Coccothraustes Coccothraustes</i>	冬鳥																		
79	ハトリドリ科	スズメ	<i>Passer montanus</i>	留鳥																		
80	ムクドリ科	ムクドリ	<i>Sturnus cineraceus</i>	留鳥																		
81	カラス科	カケス	<i>Garrulus glandarius</i>	冬鳥																		
82	カラス科	オナガ	<i>Cyanopica cyana</i>	通過鳥																		
83	カラス科	ハシブトガラス	<i>Corvus macrorhynchos</i>	留鳥																		
1	キジ科	コジュケイ	<i>Bambusicola thoracica</i>	留鳥																		
2	キジ科	ハツカン	<i>Lophura nycthemera</i>	通過鳥																		
3	チメドリ科	カビチヨウ	<i>Garrulax canorus</i>	留鳥																		
4	チメドリ科	ソウシチヨウ	<i>Leiothrix lutea</i>	通過鳥																		